

パンタール通信

南北米福地開発協会

会報

2008年7月1日

58号

南北米福地開発協会のレダでの活動が パラグアイのABC新聞に掲載されました。

ESTUDIO SATELITAL ENCARGADO

Hay 800 mil hectáreas en poder de campesinos

La Asociación Rural del Paraguay controla a una empresa de imágenes satelitales para realizar un relevamiento de la ocupación territorial en el país. El informe final indica que alrededor de 1.800.000 hectáreas corresponden a parcelas de pequeños productores en la Región Oriental. De ese total, hay aproximadamente 800.000 hectáreas de "folklore", tierras que fueron cultivadas alguna vez y que ahora están convertidas en yuyales. La ARP sugirió un plan para la reutilización productiva de esa superficie, con titulación y apoyo técnico, lo que, según estima, puede generar riquezas por unos 1.200 millones de dólares. El dato confirma que la crisis campesina no se debe a la falta de tierras. Fernando Lugo justificó ayer las invasiones como medida de último recurso. **Página 2 a 8**

2008年5月13日



Lo que pudo ser Puerto Casado



Imagen de un tractor en un campo de cultivo en Puerto Casado, Paraguay. Fuente: ABC Color.

レダ近郊のインディヒナの村の労働者がトラックターの運転を学び、自ら建設の作業を行う。

Corrupción y fanatismo religioso impiden inv.

Puerto Leda es un sitio donde reina la miseria

Puerto Leda es la única inversión turística en el Paraguay paraguayo. Cinco millones de dólares y ocho años de trabajo transformaron un desierto. En Puerto Casado dirigen peñales y religiosos no aceptan inversiones; lo que impide generar fuentes de trabajo. Reina la miseria.

2008年5月16日



En Puerto Leda, el único sitio donde se ha invertido en el Paraguay, la miseria reina. Los campesinos no aceptan inversiones y dirigen peñales. La única inversión turística en el Paraguay paraguayo es Puerto Leda, donde se han invertido cinco millones de dólares y ocho años de trabajo. Sin embargo, la miseria sigue reinando. Los campesinos no aceptan inversiones y dirigen peñales. La única inversión turística en el Paraguay paraguayo es Puerto Leda, donde se han invertido cinco millones de dólares y ocho años de trabajo. Sin embargo, la miseria sigue reinando.

La única inversión turística en el Paraguay paraguayo es Puerto Leda, donde se han invertido cinco millones de dólares y ocho años de trabajo. Sin embargo, la miseria sigue reinando. Los campesinos no aceptan inversiones y dirigen peñales. La única inversión turística en el Paraguay paraguayo es Puerto Leda, donde se han invertido cinco millones de dólares y ocho años de trabajo. Sin embargo, la miseria sigue reinando.

南北米福地開発協会がインディヒナの村に学校を建て、自然保護のための植樹活動ならびにパンタールを紹介するエコツアーを推進している。

2008年5月14日

En Puerto Leda pretenden "enseñar a pescar" para salir de la pobreza

Contar con atractivos ecológicos no es suficiente para disponer de un producto turístico. Se requiere inversión para mejorar infraestructura. Puerto Leda es reflejo de esta realidad.



En Puerto Leda, se pretende enseñar a pescar para salir de la pobreza. Contar con atractivos ecológicos no es suficiente para disponer de un producto turístico. Se requiere inversión para mejorar infraestructura. Puerto Leda es reflejo de esta realidad.



Apreciado lector: Cuidemos nuestra patria. Protejamos los árboles que hay en ella y plantemos más. Cuidemos los ríos y los lagos que hay en ella y plantemos más. Cuidemos el medio ambiente que nos rodea y plantemos más.

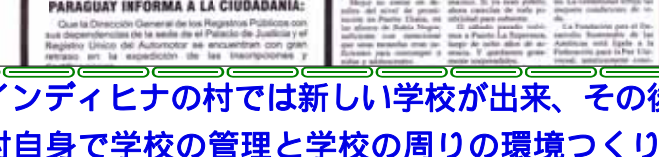
2008年5月15日

La Esperanza cambio con el trabajo

Puerto Leda, oportunidad para una vida mejor. La Esperanza cambio con el trabajo.



La Esperanza cambio con el trabajo. Puerto Leda, oportunidad para una vida mejor. La Esperanza cambio con el trabajo.



La Esperanza cambio con el trabajo. Puerto Leda, oportunidad para una vida mejor. La Esperanza cambio con el trabajo.

インディヒナの村では新しい学校が出来、その後、村自身で学校の管理と学校の周りの環境づくりのため、花壇を作り、学校の周囲に柵を設け、勉強に集中できるよう努力している。今後、レダに各種技術を高める学校を建設する計画も進行している。今年の日本からのボランティア隊は8月20日から9月5日までインディヒナの村で生活しながら村の学校の柵に沿ってニームの樹を現地の学生、青年と共に植林する計画である。

エコツアー報告

(2008年4月25日-5月4日)

大沢和子さんから



大沢家でレダに
植えた記念植樹
の前、大沢さん
母娘で写真撮影



大きく育った記念植樹の前で写真を撮る
正本さん

エコツアーを振り返って(大沢和子)

「お母さん、私、五月の連休、休み取れたので旅行に行きたいんだけど、どこがいいかな? 自然にふれられるところがいいんだけど...」
「うーん、五月の連休ねーあつ、そういえばパンタナル通信に、エコツアーのお知らせがあったはず...」 日程もピッタリ オツケイ 龍馬と竹馬がボランティアで行ったところよ、パンタナル、レダにぜひ行ったらいいよ!」

「そうね、じゃ、お母さんも一緒にいいかい? お母さんと一緒にいきたいな。」
次女の由季からの突然の電話でした。由季は大学を卒業して札幌勤務が決まり、実家の東京の家族と離れて一人暮らし、四年目になります。由季と二人だけで旅行に行ってみよう。という気持ちもあり、様々な事情も頭から飛んで、「私も行く!」と決意してしまっただけです。それからが大変。費用、仕事のこと。母の介護を頼むためのヘルパーさんの手配、黄熱病の予防注射、etc... あれこれありましたが、夫をはじめ家族といるのの方々の御協力のおかげで何とか準備が出来、出発の日を迎えることができました。

今回のエコツアーは中部国際空港からの出発でした。香港、ヨハネスブルグ経由してサンパウロへ到着。ここで1泊して、翌朝、アスンシオンへ。アスンシオン空港では、佐野さんが、出迎えてくださり、空港の特別室? に案内され、ちよつと乗り物酔い気味だった

娘と私はホツと一服することができました。

それから、いよいよ九人乗りのチャーター機でレダへ向かいます。雲の中を縫って飛んで行くスリルと白い綿雲の影が模様のように見える下界の景色、青空のきれいなこと。しばらくすると眼下に蛇行するパラグアイ川とやしの木のジャングルが現れ、いよいよパンタナル、レダに近づいてきたことを感じ、わくわくしてきました。約二日ばかりでやっとレダに着くことができました。

お天気も良好。レダでは、スタッフの方々が暖かく出迎えてくださりました。案内されるままに入ったゲストハウスは気持ちよく整えられた空間でした。しばらくすると、昼食。いろいろな料理の中におそばとお豆腐と大根おろし、お味噌汁までが用意しており、感激。それもレダで出来た大根と聞き、驚きました。

何回もの機内食に疲れていた胃にはありがたく、とてもおいしかったです。新鮮なフルーツ、レダ基地でとれた蜂蜜入りジュース、いまでも忘れがたいおいしさです。昼食後は早速、植樹した木々たちのご対面です。広い植樹園には樹の一本一本に住所が付いていて、前もってそれぞれの樹を調べていて下さり、車で案内してくださりました。七年前に植えた夫の樹のマンガーは四年前に初めて実がなったとき、写真を送っていただいていた。二〇〇五年に青年ボランティアに参加した長男が植えた樹と去年実家の父と母の名で植樹していただいた樹も元気に育っている姿を見ることができ、嬉しく、

娘と一緒にしつかり写真を撮りました。スタッフの方々の丹精の賜物と感謝します。その後私たちは夕食までの時間、パラグアイ川の支流沿いの道路をドライブすることができました。この道は、土を積み上げて作ったとのこと。道の脇はすぐ水辺で紫の水草の花がきれいなこと。いろいろな鳥たちも群れを成して飛んでいます。道路に出てきた大きなワニを見ることが出来ました。トウユウという鶴のようなめずらしい鳥もいました。まさにここぞパンタナルという景色が広がっています。なんと言ったらいいのでしょうか。写真やビデオで見るだけでは感じられないものが、ここにはありました。この素敵な道を、翌日は馬車に乗って、のんびりと楽しみました。かわいいいカピパラの家族にも会えました。そして夜は満天の星空です。初めて見た南十字星。天の川。神秘的で、言葉にすることができません。このすばらしい自然環境をこのままずっと残していく為に、地球のあちこちで進んでいる環境破壊がこれ以上進まないように、すべての人が幸せになれるように、流れ星に願いを込めながら、レダ基地での1日目が終わりました。翌朝、日の出前の一段と澄みきった空気の気持ちよいこと。朝焼けの空、パラグアイ川の向こう岸の地平線からオレンジ色の太陽が見えるうちに昇ってきます。給水塔の日陽園の文字が朝日で輝いていました。二日目の午前中、ボートでレダ近隣のインディヒナの村に行きました。パラグアイ川と青い空とやしの林、風を切って進むボートの気持ちよいこと。

私たちのボートが近づく子供たちと学校の先生、村長さんが笑顔で迎えてくださいました。学校では、「咲いた、咲いた、チューリップの花が…」の歌を、生徒たちが上手に歌ってくれました。4年前、日本から来たエコツアーの女性達から教えてもらったこの歌が、学校の校歌になっているとのこと、驚きです。娘が子供たちをデジカメで撮っていると、あっという間にカメラを覗き込む何人もの子供たちで囲まれていました。生き生きとした目を持つている子供たちです。三石さんが「青年ボランティアに参加したお母さんとお姉さんです。」と紹介してくださると学校の先生が「息子さんのことを覚えています。」と言つて下さって、感激でしたが、私たちも、もっと積極的に何か子供たちと交流する準備をしてくればよかったと、後になって思いました。心残りで村を離れ、レダ基地へ帰りました。午後は乗馬と馬車での散策の後、ゲストハウスのそばに植樹するようにニームの苗を用意してくださっていました。自分の手でこの地に植樹できたことが嬉しく、杭にそれぞれの思いを込めて名前や一言書き添えました。夕食後、ビデオ上映があり今までのレダ開発の歩みを見せていただきました。厳しい自然環境の中で、何も無いところからの開発、今、改めて現場のご苦労を思い、変わらない信念のもとに歩むスツァの方々の姿に、尊敬の気持ちでいっぱいです。本当にいろいろお世話になりました。ありがとうございました。

東京に帰ってから協会のホームページを見て、パンタナル、レダを懐かしく思い出しています。



エコツアーと一緒に行った氷室さん
(記念植樹前の準備)

一日研修会（六月一五日）大山ふるさと会館にて

当日三名の比較的高齢のご婦人がセミナーに参加されることになり、従来よりは人数が多くなり環境問題と植樹活動の関心の高まりが感じられる。前半の「環境問題とパンタナール植樹活動」と題して戸石 緑の会事務局長の話が始まった。一時間のプレゼンテーションで森林破壊、砂漠化、地球温暖化などの現状が説明され、休憩を挟んでパラグアイ・パンタナールにおける植樹活動の様子を説明された。半乾燥地を土壌改良をなし、ジャトロファやニームやモリンガの有用樹木やチバト、桃色イペー、ラパチヨ、などパラグアイ南部で自生している木々を八年の間、育てることにより、鳥のえさになる土中に小動物が増加し種々の鳥たちが飛来し定着するようになったという。後半は南北米福地開発協会理事岩澤氏による「パンタナールエコツーリズムの魅力」と題した話だ。氏は長年ボリビアに滞在した経験を持ち、現在は理事としてアウトパラグアイ州のプエルトレダに幾度か足を踏み入れた人だ。

レダ開拓は一九九九年十月から始まり、飲み水、電気、トイレなど何も無いところから浄水設備の建設、発電機の設置、宿舎、ゲストハウス、セミナーハウスの建設を成し遂げた写真が映し出された。エコツアーの基盤を作ることができたのは、共生共栄共義の「他の為に生きる」、価値観でやってきたからである。現地のインディヒナの人々の教育のため、将来レダに学校を建てる計画もあるという。氏の柔らかい口調の中に明確な響きがあり、実践による自信と決意、暖かい人柄が説得力を加えていた。

（紅屋氏報告）

参加者の感想文

環境問題や有用作物の利用方法など非常に興味があるので、お話は大変ためになりました。特に環境破壊だのエネルギー問題だのと、世間やメディアが騒ぎ立てているだけなのに対し、問題解決のための行動をされているという点、さらに具体的に成果を上げられているということに感心します。有用植物の栽培やその利用方法について学んでいるのでジャトロファやニームにも関心があります。熱帯植物を日本で研究するにも、環境や土壌条件が異なるため、研究そのものにも疑問が生じることも多いため現地での活動を体験してみたいです。

（二十歳、農大女子学生）



講師 岩澤 南北米福地開発協会理事

国際協力青年 ボランティア ア支援金

再度のお願い

八月二五日から出発する事になっており、すでに現地のインディヒナの村では準備万端、来てくれる事を心待ちにしています。村に寄贈する文具類は準備が整いましたが青年たちが現地に行く旅費の一部援助と現地で植樹をするための苗木と保護柵の購入のための資金がまだ不足しています。再度のお願いで恐縮ですが左記の口座に支援金をお願いいたします。



南北米福地開発協会 事務局

〒二二二一〇〇〇一
神奈川県川崎市高津区

溝口二一十一十五

岩崎ビル四F

電話

〇四四一八二九一二八二一

Fax

八二九一二八二〇

会費納入

郵便口座

一〇一八 〇一七七六八〇四七一

代表 柴沼邦彦

E-MAIL office@sdc-nsa.jp
ホームページ

<http://www.asd-nsa.jp>